



決勝 岩手ー盛岡中央 第2ピリオド、岩手のFW松本大輝(左)がゴールを決め、5-2とリードを広げる。盛岡市・みちのくコカ・コーラボトリング rink

27年ぶりの栄冠に輝いた岩手

岩手が27年ぶりV 県高校

アイスホッケーの全国高校選手権県予選を兼ねた第68回県高校選手権は25日、盛岡市のみちのくコカ・コーラボトリング rinkで決勝が行われ、岩手が盛岡中央を8-2で破り、27年ぶり20度目

▽決勝

岩手 8-2 盛岡中央
3-0

▽得点者【岩】松本2、矢羽々2、米沢2、佐藤、滝沢【盛】菅原、木村

粘りの守備 王座奪還

盛岡中央の反撃しのぐ

盛岡中央の反撃をしのぎ、試合終了のアザーを聞き、岩手の選手は拳を合わせ控えめに喜び、

中央は選手6人で臨み、第2ピリオドに2点を返すなど意地を見せたが、連覇は26で止まった。岩手は来年1月23日から八戸市で開かれる全国高校選手権に出場する。

分、反則で味方が1人少ないピンチ。ここでFW松本大輝(2年)が躍動する。ブルーライン内で相手のパスをカットし、

独走でゴールを決めた。DF我妻利史主将(3年)が「後輩が勢いをつけてくれ緊張が解けた」と感謝した1点目。さらに岩手はFW矢羽々琉玄副主将(1年)のストラップショットで2点目、シュートリバウンドをたたいて3、4点目を奪い、

盛岡中央は今回、選手がわずか6人ながら、個々の技術やスピードでは上回った。対する岩手は体を投げ出して個人技を防ぎ、激しいチェックで対抗。選手も状況も異なるとはいえ、1年前のこの大会で0-42で敗れた相手に雪辱を果たした。

の牙城は崩せず、苦難の時代が続いていた。矢羽々以外の部員16人は高校からアイスホッケーを始め、3年生は2人だけだ。3年前に岩手の指導に戻った佐々木康明監督は「強かった時代を知らない生徒が、諦めず結果を残してくれたことに感謝する」と選手を褒め、我妻主将は「盛岡中央の分も戦い、1回戦を突破する」と全国への覚悟を口にした。(菊池)